

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 1 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Additive effects of moderate drinking and obesity on serum γ -glutamyl transferase activity. 血清 γ -GTP 活性に与える、中等度の飲酒と肥満の相加的効果	
執筆者	
Puukka K, Hietala J, Koivisto H, Anttila P, Bloigu R, Niemela O.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Clin Nutr. 2006 Jun;83(6):1351-4	
キーワード	
エタノール、肥満、脂質過酸化	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>血清 γ GPT(GGT)は肝臓で誘導され、広く使われている指標であり、過飲酒のマーカーでもある。肥満も GGT 活性を上げることがこれまでに示唆されている。この研究では、中等度の飲酒、肥満及び GGT 活性との関連について検討する。</p> <p>方法：</p> <p>北欧の酵素参考値確立を目的とする調査の参加者のうち、非飲酒者もしくは中等度飲酒者（1日エタノール消費量 1-40g）である 2490 人（男性 1184 人、女性 1306 人）を、本研究の対象とした。対象者は、BMI によって、低体重（BMI19 未満）、正常体重（BMI19 以上 25 未満）、過体重（BMI25 以上 30 未満）、肥満（BMI30 以上）に分類された。</p> <p>結果：</p> <p>性（$p < 0.0001$）、飲酒習慣（$p < 0.01$）、BMI（$p < 0.001$）が血清 GGT に有意な影響を与えることが見出された。GGT 値は、女性より男性で高く、BMI が高い方が、GGT 値もより高かった。最も高い GGT 活性は、過体重もしくは肥満を合併する中等度の飲酒者において見られた。GGT と BMI には有意な正の相関が見られ（$p < 0.0001$）、この関係は女性（r（相関係数）=0.15）よりも男性（$r = 0.24$）においてより強く認められた（GGT と BMI の相関関係における性差は $p < 0.05$）。</p> <p>結論：</p> <p>このデータから、血清 GGT 活性は、中等度の飲酒と肥満に相加的に反応している可能性が示唆された。この点を、臨床の場で GGT を測定する時や、ヘルスケアにおいて GGT 活性正常値を設定する際に考慮すべきである。</p>	